

第5期雄武町総合計画策定審議会専門部会報告（実施計画）

部会名【総務・行財政部会】

- 【部会長】 高橋 進
【部会長代理】 佐藤 忠英
【部会員】 安瀬 勇、小野 由美、木元 之生、今 哲、
竹田 浩二、平田 徹

【会議開催状況】

- ・ 9月27日（地域交流センター） 5名出席
- ・ 10月3日（地域交流センター） 3名出席

【審議結果】

基本施策22 住民主体のまちづくりの推進

「まちづくり講座の開催」(P253)

- ・ 年度目標を年10回としているが、実際に町民がどのくらい集まるかということがあると思う。発想は良いので、より効果的な実施に向けての検討が必要である。
- ・ 講座の内容については、なるべくHOTな題目にして、一方的な講座にならないように、お互い話が伝わるような形になればいいと思う。

「住民向け財政情報開示事業」(P255)

- ・ 紙面の内容については、数値の羅列ではなく、表を使うなど一般町民に見やすい構成が必要である。

「ふるさと発信CI推進事業」(P258)

- ・ CIマークの活用ということでは、ポスターと名刺だけではなく、もう一步踏み込んでいいのではないか。例えば、道の駅のどこかに大きく描くとか、ボランティアで看板を作ってもらって刷り込むとか、バスに貼りつけるなど、新たな発想というのにも必要である。

「自治会運営補助事業」(P259)

- ・ 自治会から町に対する要望で一番多いのが街灯のことであり、ただ増やせばいいということにはならないと思うが、安心・安全の面からも必要とされる所については、新規でも設置して行ってほしいと思う。

基本施策23 多様な交流の促進

「地域間交流推進事業」(P263)

- ・ “ふるさとふれあい交流会”については、マンネリ化しないように内容の充実を図って行くべきである。

基本施策 2.4 効果的・効率的な行政経営

「職員研修事業」(P266)

- ・研修の成果について、皆で話し合うといったことも必要ではないか。
- ・民間で実施している研修などへの職員の自主的参加も必要ではないか。

前期財政計画(案)について

- ・財政計画の内容を理解させるためには、数回に分けて周知をすとか、図式的にイメージさせるとか、夕張市のような事例と比較するといったことも必要である。
- ・特に病院という部分では、特別会計が赤字のまま進んで行くというような言い方をしてしまうと意味合いとしてはかなり変わってくるので、実質公債費比率の中では病院の特別会計のことを勘案しているということを説明して行くと、町民も少しは安堵するのではないかと思う。
- ・病院は、我々の生命を守るという部分でなくてはならないものなので、一般会計からの持ち出しがあるにしても、町民の意見を聞きながら様々なメニューを選択して、良い方向に行かなければいけないと思う。

その他について

- ・行政の窓口業務については、現在は窓口がバラバラになっているので、行政窓口のワンストップサービスということを検討してほしい。
- ・「神門プロジェクト事業」(P60)については、かつては上幌内で採れる“サンナシの実”でワインを作ったが、結局は立ち消えてしまったという経緯もあるので、ブランド化ということであれば知名度が付くまで継続して進めていくなど、長いスパンで考えて行く必要があると思う。
- ・国保病院の上の方に町有地が沢山あるが、例えばケアマンションの施設誘致ということで活用すれば、人口も増えて行くのではないか。
- ・上幌内地区については、治安や防犯、高齢世帯という問題もあるので、集落の移転を含めて、行政がある程度方向付けをするということも必要ではないか。
- ・山村留学推進事業については小学校の存続ということから始まったが、入ってくる人の問題もあり、現状としては地域の重荷となっている面もあると思う。
- ・西興部村の“IT夢(アトム)”のように、一つの建物にパソコンを設置して、そこに小中学生が行って授業を行えば、最低限の設置台数で済むということになるので、効率的であると思う。後期計画の中では、そういうことも含めて考える必要があると思う。